

★「非認知能力」とは？ part3～Q & A～

(日本生涯学習総合研究所「非認知能力について」 <https://www.shogai-soken.or.jp/non-cognitive-skills/>)

Q1 「認知能力」と「非認知能力」、どちらが重要なのでしょうか？

どちらも重要です。

ハックマンらの研究チームは、テストスコアのみで測定した「認知能力」と、学問的な頭の良さや賢さへのこだわりが、人的資本介入の評価に深刻な偏りを引き起こしていると指摘しています。これはつまり、「非認知能力」に対する評価が過小であったことへの反省を含めて、評価対象として、これまで以上に「非認知能力」に着目すべきであることを意味しているのです。決して「認知能力」よりも「非認知能力」の方が重要であるとか、「認知能力」は必要ない、といった意味ではありません。



Q2 「非認知能力」は、大人になっても育成できるものなのでしょうか？

大人にも伸ばせる能力はあり、能力向上は一生続きます。

幼児期に「非認知能力」を育成することが最も効果的であるということは、多くの研究で取り上げられており、「非認知能力」は幼児期で全てが決まるという情報も見受けられます。「認知能力」と同じように「非認知能力」も幼児期において柔軟に吸収しやすいことは間違いないでしょう。性格もまた、幼児期にある程度形成され、その後容易には変化しないと言われています。性格＝「非認知能力」と捉えている研究もあり、この観点からは、大人になっても育成できるとは言いがたいかもしれません。

しかし、自分に不足している部分に気づき、周囲の人からの助言を受け入れ、他者の優れたところを吸収するなどして、考え方、姿勢、行動を変えていくことで、大人になってからでも伸ばせる能力はたくさんあるはず。アメリカの心理学者アンジェラ・L・ダックワースは、成功者に共通するGRIT（やり抜く力）の指標を提唱し、「非認知能力」は、大人になっても身に付けることができると言っています。

経済産業省においても、人生100年時代に職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として「社会人基礎力」を提唱しているように、幼児期以降にも生きていくために重要な力の育成は大切であり、「非認知能力」の向上は一生続くと考えられます。

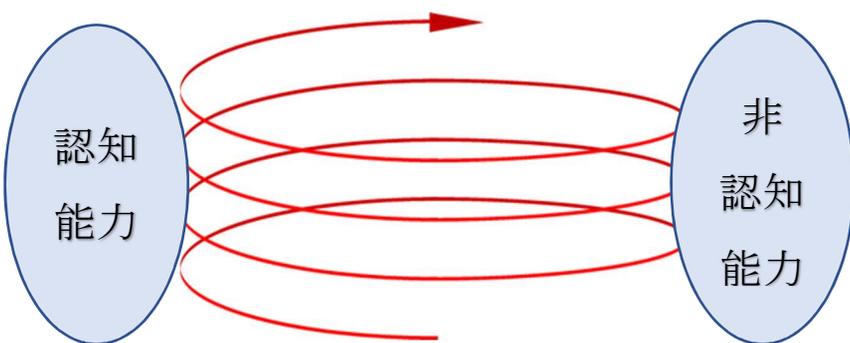
非認知能力	
表面的なもの	鍛えられる
意識によって変えられるもの	
先天的に形成されるもの	

《補足》「非認知能力は大人になってからも鍛えられる」

非認知能力には大きく3つの階層があり、「表面的なもの」「意識によって変えられるもの」「先天的に形成されるもの」に分けられ、そのうち、**意識によって変えられる価値観・自己認識・行動特性は、社会人に必要な非認知能力であり、教育によって高めることが可能です【右図】**。特に自制心や協調性、忍耐力、人間関係におけるスキルなどは大人になった後のほうが高めやすいともいわれています。

(日本能率協会マネジメントセンターより <https://www.jmam.co.jp/hrm/column/0140-non-cognitive-abilities.html>)

認知能力と非認知能力の相互作用



この二つの能力が連動することによって、より効果を発揮、とてつもない力になる！

例えば、「認知能力」＝知識・認識が高まれば、課題の解決の道筋が見えてくる可能性が高まります。知識が増えると、モノや社会の見え方が変わり、深まり、興味・関心につながります。学問の本質に近づき、探究心が芽生えるきっかけになります。

一方で、非認知能力を鍛えると、例えば受験勉強、セルフマネジメント力（先の見通し、計画する力、時間の効率的な使い方）によって、どの科目を優先してやるか、得意科目を伸ばすか不得意科目を克服するか、行きたい大学の合格点まで何点足りないから、いつから、何を、どれだけやるかというメドを立て勉強するようになる。過程と到達のメドが立つと勉強もやる気になり、受験学力も効率よく身につけていく流れになる。

知識（認知能力）だけじゃモッタナイ。非認知能力だけでもモッタナイ。エコ、SDGsの時代だからね。両方の連動を“意識”して。効率よく&効果は倍。(教頭 長岡将之)

★校長より★ 皆さんが目標に向かって努力するとき、目につきやすいのは認知能力です。テストの点が上がった、走るタイムが上がった等ですね。ただ、この努力をしたときに必ず非認知能力も向上しています。意欲、向上心、レジリエンス…等です。今まではこういった非認知能力についてあまり、目が向けられていませんでした。しかし、「変化の激しい時代に活躍するためにはこの非認知能力が実は重要ではないか、だから、意識して伸ばしましょう」というのが現在の流れなのかなと思います。非認知能力を伸ばすということは特別なことではなく、色々な活動の中でそれを「意識する」ことだと考えます。(校長 原 拓史)